



食のまぶくり運動

# 組合員24人と役職員で大型バスで往復 福島の今を知り、誰かに伝える旅

**主催** 東日本大震災3.11を忘れない作業チーム **開催** 3月13日(木)～3月14日(金)1泊2日

東日本大震災から14年。被災地を訪問し、今を知り、それを誰かに伝える。自分の目で見て話を聴き、学び、体験する「スタディ交流ツアー」。この企画は、みやぎ生協・コープふくしま 福島本部のご協力のもと実施しました。

穴戸義広さん(写真左) 齋藤恵理子さんに2日間ガイドとして同行していただきました。



参加者一人ひとりに手渡されたメッセージカード。

行動目標 1 食料自給率の向上

行動目標 2 日本の農業を元気に

行動目標 3 持続可能な社会に向けて

「食の未来づくり運動」を伝え、その輪を広げよう

1人が5人に地域で、その輪を広げよう

## 1日目

常磐富岡ICで高速を降り、富岡町夜ノ森周辺を車窓から視察。福島第2原発を遠くに見ながら子安橋周辺を通過、福島第1原発近くの双葉町駅周辺を通りました。

### 東日本大震災・原子力災害伝承館

動画視聴の後館内の展示物を1時間かけて見学しました。



除去土壌などの保管に関する住民説明会用模型

建物右上の青い看板が津波到達地点



### 震災遺構・浪江町立請戸小学校

海岸から340メートルの所にある小学校。浪江町の被害状況は、震災による直接死182人でしたが請戸小学校では校内にいた児童82人と教職員13人は大平山に避難して全員無事でした。



双葉町周辺「この先通行制限中」の看板と作業員

### 今も残る帰還困難区域を通過

車窓にはこうした景色が続きます。

放射線測定器をお借りして車内から測定



### おおひらやま 大平山霊園・慰霊碑 (浪江町)

児童たちを救った山として語り継がれています。



## 2日目

### 相馬市伝承鎮魂祈念館視察

相馬市の「原風景」を後世に残し、遺族の心のよりどころとするとともに、震災前の相馬市を知らない方々に在りし日の相馬市の姿を知ってもらうための施設で、館長のお話と動画を視聴しました。



館長のお話と話を傾ける参加者

### 飯館村農家レストラン「気まぐれ茶屋ちえこ」にて昼食交流会

計画避難を余儀なくされ、7年後に飯館村に戻って店を再オープンした店主のちえこさんの作る郷土料理をいただいた後、語り部の美喜子さんから当時のお話をお聴きしました。



語り部の佐藤美喜子さん



### 参加した職員の感想



商品部 食品第1グループ 大嶋 孝弥職員

報道だけでは伝わらない思いが見え、自分の仕事(後世に伝える)の大切さを改めて感じました。今回参加して、東都生協が単に商品を届けるだけでなく、地域の再生や人々の絆を育む大切な架け橋であることを実感しました。



### 松川浦大橋

2日目の朝は、松川浦大橋見学からスタート。橋の真下から見上げること約10メートル。津波の高さを実感しました。

### 今月のつぎやき

蓮の花を見ると懐かしくも清々しい気持ちになります。雅楽の想夫恋(蓮)に由来している私の祖母の法名。3度の出征の末戦死した夫(私の祖父)と過ごした日々を想いながらも、遅く生きた祖母の姿は、泥の中でも凜として咲く蓮の花と重なります。戦後80年、祖母たちの人生に想いをせながら平和への祈りを捧げたいと思います。(MS)

### お問い合わせ

産地直結ひとすじ。いちばん頼れる生協に。

共同購入事業部 組合員活動推進グループ

☎03(5374)4756 月曜～金曜日：午前9時～午後4時

E-mail: kumikatsu@tohto.coop

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸5-4-42 さんぼんずセンター2階

